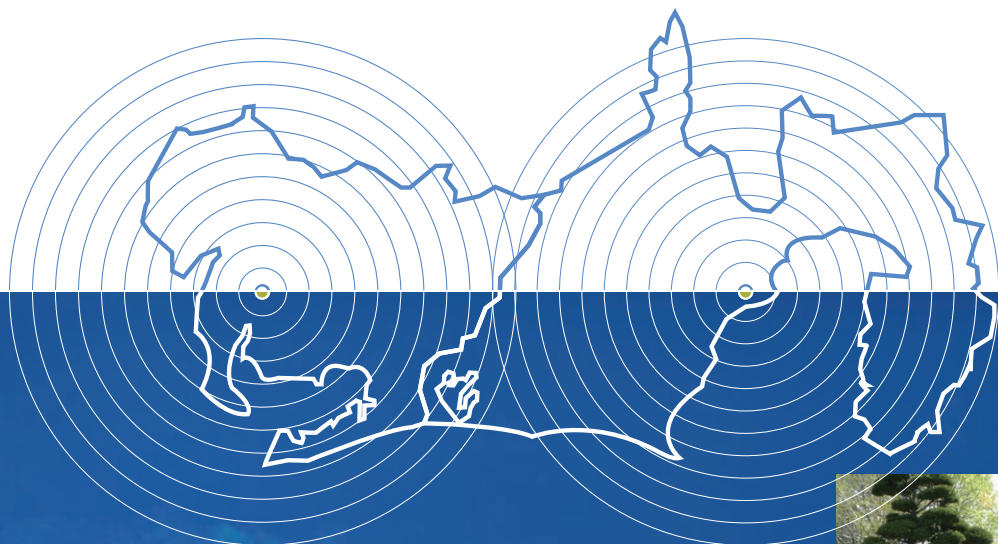


愛知教育大学大学院教育学研究科
静岡大学大学院教育学研究科

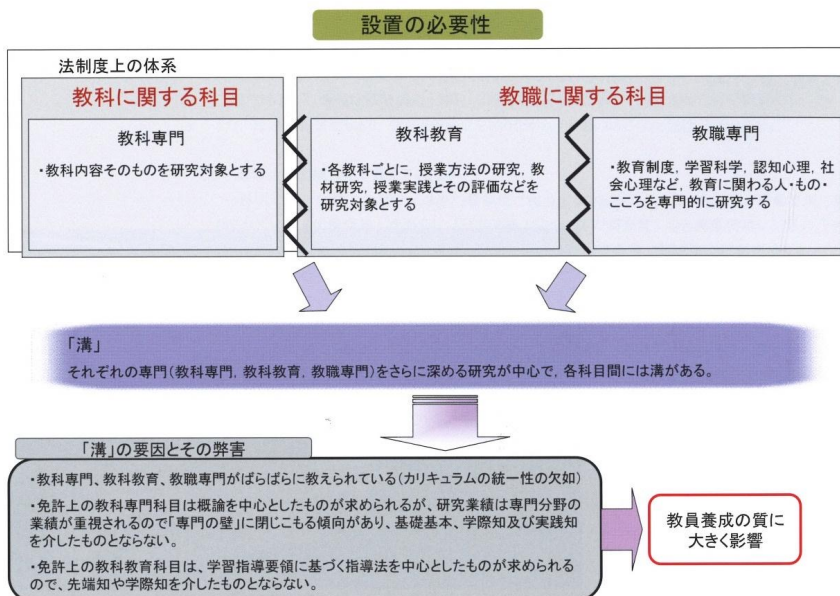
共同教科開発学専攻案内

～教育系大学教員養成のための大学院(後期3年博士課程)～

Cooperative Doctoral Course in Subject Development



国立教員養成系大学・学部は我が国の教員養成に一定の役割を果たしてきましたが、体系的な教員養成カリキュラムの編成や、教科専門、教科教育、教職専門の体系的な組み合わせが、今、求められています。これを行うことが教員養成学部の独自の専門性を発揮することに繋がり、後継者を他学部に頼ることなく、教員養成学部独自の専門性を確立するために博士課程が重要な役割を果たす、と指摘されています。（「今後の国立の教員養成大学学部のあり方について」（平成13年11月22日国立の教員養成系大学学部のあり方に関する懇談会報告））。愛知教育大学及び静岡大学教育学部は、国立の教員養成系大学・学部としてこれまで取り組んできた実績を活かし、社会的ニーズに対応するために教育系大学教員養成のための博士課程を共同教育課程で設置しました。

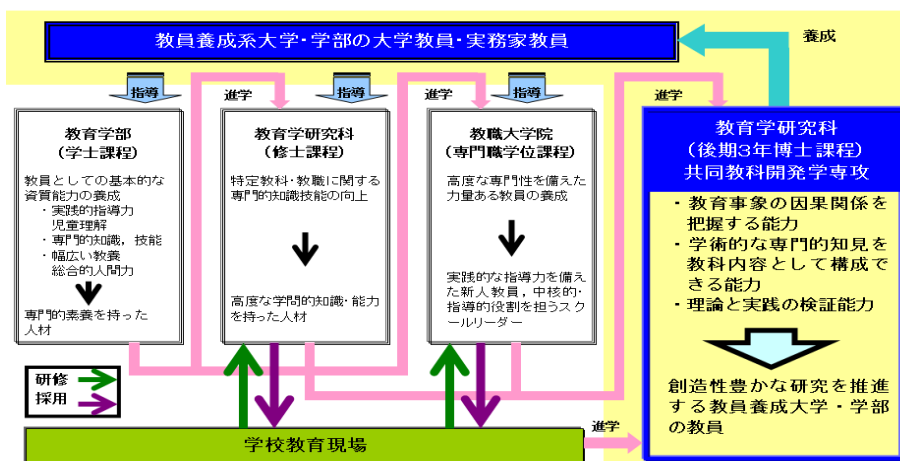


目的

現在、教育を取り巻く社会状況や学校教育が抱える課題が複雑化し、学校教育現場の教員に高い資質能力が求められています。その一方、教員養成カリキュラムの目的性や科目の体系的性の欠如等の課題が浮き彫りにされ、中央教育審議会では教員の資質能力の向上のための教員養成システムにおける修士レベル化が検討されています。

本共同専攻は教育研究の後継者を教員養成学部自らが養成し、教員養成学部が独自の専門性を確立していくことに貢献し、今、社会的に求められている教員養成の高度化・修士レベル化に対応していくために相応しい教育研究が遂行できる大学教員を養成することを目的としています。

共同専攻設置の目的

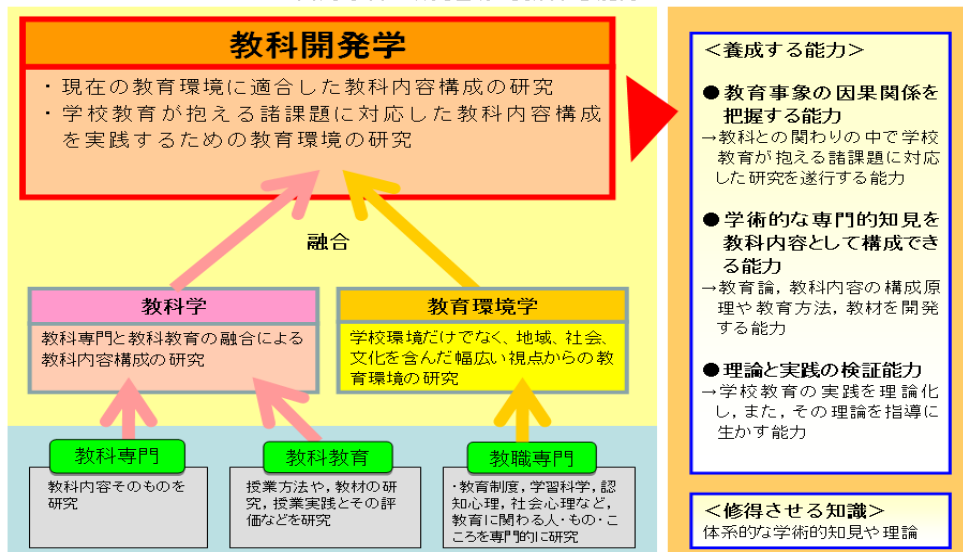


養成する人材像

本共同専攻では、「教科に関連する包括的、総合的、応用研究」を発展させるために、この研究領域に関心を持つものに広く門戸を開放しています。

本共同専攻の学生には、(1)教育事象の因果関係を把握する能力を身につけ、教科との関わりの中で学校教育が抱える諸課題に対応した研究能力を習得し、(2)学術的な専門的知見を教科内容として構成できる能力を身につけ、教育論、教科内容の構成原理や教育方法、教材を開発する能力を習得し、(3)理論と実践の検証能力を身につけ、学校教育の実践を理論化し、その理論を指導に活かす能力を習得し、博士論文の作成を通して「教科開発学」を深めることが求められます。

共同専攻の研究目標・養成する能力



共同専攻の内容と特色

定員

本共同専攻の収容定員は、1学年8名、総定員24名です。専任教員総数41名と学生総数の比は、1対1以上であり、きめ細やかな研究指導体制を敷いています。

専攻概要

本共同専攻は、愛知教育大学と静岡大学教育学部が共同して教育課程を構成している後期3年のみの博士課程であり、教科専門と教科教育を融合・発展させた教科科学と、教職専門を発展させた教育環境学とを融合させることで、独自の学問分野である教科開発学を確立することを目指し、児童生徒を取り巻く環境を視野に入れ、教科との関わりの中で学校教育が抱える複雑・多様化した諸課題に対応した研究を行います。

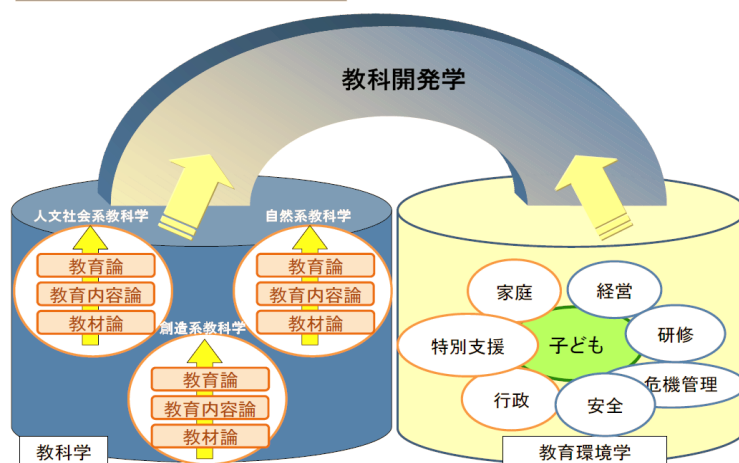
教育環境学は、学校環境だけではなく、地域、社会、文化を含んだ幅広い視点から教育環境の研究を中核とします。

教科科学は、教科専門と教科教育の融合による教科内容の構成に関する研究を中核とし、教育論・教育内容論・教材論という基本軸からアプローチします。「教育論」は児童生徒の発達のために、どのような教育目標のもとに、どのような内容をどのように教え（教師）・どのように学ぶか（学習者）を論じ、従来の「教科教育科目」で検討してきた目標論、指導論、学習過程論をも含みます。「教育内容論」は、それぞれの学術（学問・芸術）分野を基盤として持ちながら、その全体像からこの学問分野の必須部分を抽出し、個々の専門分野がどのように関連しながら「教科」の内容がいかなるものから構成されているかを追求します。「教材論」は、教科が、それぞれの学術（学問・芸術）分野を基盤としながら構成されている教材のあり方を論究し、教材の開発をすることにより教科内の構成あるいは教材配列等を実践的に考察・検証します。

(専攻名)
共同教科開発学専攻

(分野)
教育環境学
人文社会系教科学
自然系教科学
創造系教科学

教科開発学の構成



履修の特徴

開講日

講義等は、主に土曜日と日曜日や夏期休暇を利用して開講します。授業開講日は終日開講となり、4限連続、隔週開講で4日間、合計16コマで2単位となります。

修了要件

標準修業年限は3年ですが、特に優れた研究業績をあげた者にあつては修了年限の短縮も可能です。修了に必要な取得単位数は20単位以上とし、基礎科目は6単位以上、分野科目は10単位以上、応用科目は4単位以上です。なお、分野科目は選択科目から10単位以上を取得する必要がありますが、「教育環境学」の分野科目のうちから2単位及び教育環境学分野以外の3分野の選択科目のうちから2単位の計4単位は必ず履修します。

本共同専攻は、必要な研究指導を受けた上に、学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験等に合格することを修了要件として課します。なお、学位論文の提出要件は、本共同専攻内の要項に基づくものとします。

学生の指導体制

本共同専攻における教育は、授業科目の履修と学位論文の作成に関する指導によって行います。学生の希望等を踏まえて決定した本籍を置く大学の研究指導教員を主指導教員とし、主指導教員は学位論文の指導のみならず、履修指導も行います。本共同専攻では、主指導教員の他に、両方の大学から少なくとも1名以上の副指導教員を配置し、3名以上の教員で指導します。このように共同大学院の特色を活かした指導体制を整え、様々な研究分野を包含する指導体制の充実を図ります。

本共同専攻の学生は、主指導教員の指導の下に科目の履修方針を決めます。講義は、履修登録に沿って履修します。入学時に合同オリエンテーション等を行い、主指導教員、副指導教員等と学生の信頼関係を作り、3年間共に学び、研究していく関係を構築するために両大学の教員と学生、あるいは学生同士が直接対面して密に交流する機会を設けます。

講義や研究指導に関して、遠隔教育システムを取り入れて、教員及び学生の大学間の移動に配慮しています。

セミナー方式で開催する演習等においては、両大学隔年で交互に行います。

科目構成

科 目	修了所要単位数	内 容
共同専攻基礎科目	6単位以上	教科開発学の原理的諸課題や教科開発学の研究方法論を修得し、教科開発学における教育実習、実践等の改題の把握、大学教員としての教育実践力、教員FD等、実践的諸課題を追求する。
共同専攻分野科目	10単位以上	(1)教育環境学分野においてはマネージメント領域、教育方法領域、環境領域から授業を構成し、学校を取り巻く諸環境の課題を把握し、教育環境要因が強化の開発研究にいかに関与しているかを追求する。 (2)「教科学」は、「教育論」、「教育内容論」、「教材論」の3つの追求軸により、教科内容を構成する学問の構築を目指し、教科のあり方・枠組みそのものを検討し、人文社会系教科学、自然系教科学、創造系教科学の各分野の先端的な知識を習得する。 ①人文社会系教科学分野 言語・多文化領域、歴史・郷土領域、環境・風土領域から授業を構成し、地域からアジア・世界へ貫く教育方法・教材開発を行う。 ②自然系教科学分野 先端科学と教科内容学領域、教材開発と学習支援領域、教育方法の開発領域から授業を構成し、先端科学技術と関連した自然系教科のカリキュラムを構築し、教育の情報化に対応した教育方法・教材開発を行う。 ③創造系教科学分野 生活力領域、身体力領域、表現力領域から授業を構成し、基礎的な生活力や健康・体力を備え、豊かな表現力を発揮できるような教育方法・教材開発を行う。
共同専攻応用科目	4単位以上	全教員と全学生が一堂に会し、(1)教員がそれぞれの研究課題を提示し、学生と討議する、(2)学生自身が「教科開発学とは何か」、「その研究方法論と課題」について問いながら自己の研究課題を追求し、その成果をまとめて発表し、教科開発学を構築する。
修了必要単位数	20単位以上	

開設授業科目

		授業科目(開講場所 愛知教育大学)		授業科目(開講場所 静岡大学)	
基礎科目	必修科目	教科開発学原論	教科開発学実践論	教科開発学原論	教科開発学実践論
	選択科目	文化資源活用論	科学技術活用論	教育プログラム開発論	表現・鑑賞論
		教育評価実証方法論		教育フィールド*調査論	教育プレゼンテーション論
分野科目	教育環境学 分野科目	遊び文化環境論研究	学校適応論研究	学校危機管理論研究	教育工学論研究
		教育哲学・思想論研究	保育・幼児教育学研究	身体運動指導論研究	養護実践教育学論研究
		教育方法・内容論研究	教授学習論研究	特別支援教育学研究	情報教育学研究
		幼児教育・保育内容論研究	I C T教育研究		
	人文社会系 教科学科目	第二言語教育論研究	社会科教育論研究	外国語教育論研究	歴史教材論研究
		倫理教材論研究	民俗学教材論研究	国語教育論研究	
		地理学教材論研究	国語科教育教材論研究		
		国語科教育内容論研究	生活科教育内容論研究		
	自然系 教科学科目	数学教材論研究	物理教材論研究	数学教育論研究	生物教育内容論研究
		理科教育内容論研究	数学教育内容論研究	理科教育論研究	
		理科教材開発論研究			
	創造系 教科学科目	保健科教育論研究	保健体育内容論研究	美術教材論研究	体育教育論研究
		体育教材開発論研究		技術教育内容論研究	家政教育内容論研究
				体育・課外活動教材論研究	家庭科教材論研究
				技術教育教材論研究	
応用科目	必修科目	教科開発学セミナーⅠ	教科開発学セミナーⅡ	教科開発学セミナーⅠ	教科開発学セミナーⅡ
	選択科目	教科開発学セミナーⅢ		教科開発学セミナーⅢ	

専任教員一覧（主な担当授業科目と研究テーマ）

◎：主指導教員となり得る教員 ○：副指導教員となり得る教員
※：令和6年3月退職 ※※：令和7年3月退職 ※※※：令和8年3月退職
☆：学生受入れできない教員

	分野 \ 大学	愛知教育大学	静岡大学
研究指導教員	教育環境学	◎石川 恭（教授・博士（教育学）） 遊び文化環境論研究（教育社会論，余暇教育論，生涯スポーツ論） ◎野平 慎二（教授・博士（教育学）） 教育哲学・思想論研究（教育哲学，教育思想史，物語論の人間形成論） ○石田 靖彦（教授・博士（心理学）） 学校適応論研究（教育社会心理学，児童生徒間関係） ※※※○鈴木 裕子（教授・博士（学校教育学）） 幼児教育・保育内容論研究（保育学，保育内容臨床，表現・身体表現論，身体教育学，子ども理解） ○竹川 慎哉（准教授・博士（教育学）） 教育方法・内容論研究（教育方法学，教育課程論）	※※※◎村越 真（教授・博士（心理学）） 学校危機管理論研究（学校の危機管理，児童生徒のリスク認知，地図理解の認知過程，体験活動のリスクマネジメント） ※※※◎村山 功（教授・教育学修士） 教育工学論研究（認知心理学，理科教育，情報教育） ◎鎌塚 優子（教授・博士（教育学）） 養護実践教育学論研究（養護教育の実践に関わる教育，学校保健学） ◎香野 毅（教授・博士（教育学）） 特別支援教育（からだを窓口とした援助，障害領域における心理支援，動作法子育て支援） ◎中村 美智太郎（准教授・博士（学術）） 教育哲学，教育思想，道德教育，情報倫理，キャリア教育
	人文社会系教科学	※※☆◎野地 恒有（教授・博士（文学）） 民俗学教材論研究（日本民俗論，博物館教育論，歴史民俗博物館論） ◎伊藤 貴啓（教授・博士（理学）） 地理学教材論研究（農業地理論，経済地理論，地誌論） ※※※◎中野 真志（教授・博士（文学）） 生活科教育内容論研究（生活科教育論，総合的な学習の理論と実践） ※※※◎丹藤 博文（教授・博士（教育学）） 国語科教育教材論研究（言語論，物語論，文学理論，文学教材論）	※◎黒川 みどり（教授・博士（文学）） 歴史教材論研究（日本近現代史・思想史，歴史教育）
	自然系教科学	◎岩山 勉（教授・博士（理学）） 物理教材論研究（理科におけるものづくり教育，先端科学技術活用論） ※※◎飯島 康之（特別教授・教育学修士） 数学教材論研究（学習環境・コンテンツ開発論，授業研究） ○小谷 健司（教授・博士（理学）） 数学教育内容論研究（数学教材開発） ○大鹿 聖公（教授・博士（学術）） 理科教材開発論研究（理科教材開発，環境教育論・理科学習環境）	※◎熊倉 啓之（教授・理学修士） 数学教育論研究（算数・数学教育論，算数・数学教育課程論） ※※◎丹沢 哲郎（教授・博士（教育学）） （アメリカ理科教育史，理科カリキュラム論，理科教師教育，理数才能教育） ◎小南 陽亮（教授・理学博士） 生物教育内容論研究（生物多様性教育のための教材開発，生態系教育内容論） ◎郡司 賀透（准教授・博士（教育学）） 理科教育論研究（理科カリキュラム論，理科教材論，理科教育内容選択論）
	創造系教科学		◎紅林 秀治（教授・博士（学校教育学）） 技術教育教材論研究（技術教育論，技術教育教材開発，設計を主体とした技術教育） ◎杉山 康司（教授・博士（スポーツ健康科学）） 体育・課外活動教材論研究（身体運動学，体力科学，体育・スポーツ科学） ※※※◎松永 泰弘（教授・工学博士） 技術教育内容論研究（熱弾性論，材料強度学，機能性材料応用開発） ◎村上 陽子（教授・博士（学術）） 家庭科教材論研究（食文化，食品・料理色彩学，食品物性学）
授業担当教員	教育環境学	野崎 造成（教授・博士（工学）） 教授学習論研究（情報教育，日本語教育，認知科学） 梅田 恭子（教授・博士（学術）） I C T教育研究（情報教育，教育工学，I C T活用）	塩田 真吾（准教授・博士（学術）） 情報教育（I C T，キャリア教育，遠隔教育） 洪江 かさね（准教授・博士（学術）） 成人教育，社会教育，生涯教育，教師教育
	人文社会系教科学	近藤 裕幸（教授・博士（学術）） 社会科教育論研究（社会科教育，地理教育） 宮村 悠介（准教授・博士（文学）） 倫理教材論研究（倫理学，倫理思想史） 田口 達也（教授・PhD in English） 第二言語教育論研究（応用言語学，言語教育心理学）	※※※○坂口 京子（教授・博士（教育学）） 国語教育論研究（国語・国語科（言語教育）カリキュラム論，国語科目的・目標論） 中村 とみえ（准教授・博士（文学）） 日本近現代文学（小説と演劇・映画，美術の関係，古典文学の翻訳・翻案，文学教材の開発）
	自然系教科学		
	創造系教科学	寺本 主輔（教授・博士（学術）） 保健体育内容論研究（体育・スポーツ科学，発育発達，水泳） ※※鈴木 英樹（教授・博士（スポーツ科学）） 体育教材開発論研究（身体科学，体育科内容学） 山田 浩平（准教授・博士（スポーツ健康科学）） 保健科教育論研究（学校保健学，保健科教育学）	※伊藤 文彦（教授・学術修士） 美術教材論研究（デザイン教育論，デザインリテラシー教育論，デザインプロセス論） 長谷川 慎（教授・修士（音楽）） 音楽教育学（日本音楽，地歌・歌曲演奏）

博士論文題目＜直近2年分＞

修了年度	分野	論文題目
R3(2021)	人文社会系教科学	教育的意義が教員のリスク認知に及ぼす影響の研究
	人文社会系教科学	An Empirical Study of Cognitive Linguistics-Based Instruction for Effective English Phrasal Verb Acquisition 認知言語学的アプローチによる英語句動詞の指導と習得に関する実証研究
	人文社会系教科学	英語劇活動における協働対話がランゲージングに与える影響についての研究
	創造系教科学	ドライバ操作における手指動作の分析を基にした手先の器用の指導についての研究
	人文社会系教科学 (論文博士)	自閉症スペクトラム児の対人関係の向上を目的とした心理劇的アプローチの開発 ー小学校の通級指導教室における自立活動の授業実践を通してー
R4(2022)	教育環境学	アメリカの高等教育機関における Community Engagement Professional に関する研究 ーサービス・ラーニングコーディネーターに焦点をあててー
	教育環境学	災害情報を活用し豪雨災害時に安全を確保できる資質・能力を育む社会科授業の開発
	教育環境学	知的障害教育における授業力を高めるツールの開発 ー授業づくり研修に活用した有効性の検討ー
	人文社会系教科学	小学校英語教育における音声指導 ー明瞭性の向上を目指した超分節音素の 指導に関する実証的研究ー
	自然系教科学	中等理科教育におけるCNP抵抗器教材の開発とその学習効果の解析
	創造系教科学	バレーボールにおける学習プログラムの開発とその実践が思考・判断過程に及ぼす学習効果の研究
	創造系教科学	高等学校における「響く歌声」を生み出す発声法の検討 ー「共鳴腔」と「呼吸法」の発声法の比較を通してー
	創造系教科学	GPS活用による児童の活動分析からみる小学校体育科教材としての鬼ごっこに関する研究
	創造系教科学	受動歩行モデルを用いた中学校から大学を対象とした科学的探究活動の開発

修了後の進路 ＜H24～R2 大学採用のみ＞

入学年度	主な就職先
H24(2012)	常葉大学 ・ 香川大学教育学部 ・ 弘前大学教育学部 ・ 岐阜大学教職大学院 ・ 名古屋学芸大学 他
H25(2013)	神奈川大学経営学部 ・ 湊川短期大学→東海学園大学 ・ 南山大学 他
H26(2014)	常葉大学外国語学部 ・ 大阪教育大学 ・ 大阪電気通信大学 ・ 盛岡大学 他
H27(2015)	静岡大学教育学部 ・ 東洋英和女学院大学国際社会学部 ・ 明治大学総合数理学部 ・ 中部大学 他
H28(2016)	椙山女学園大学 ・ 金沢大学 他
H29(2017)	比治山大学 他
H30(2018)	愛知学院大学心身科学部 ・ 名城大学外国語学部→椙山女学園大学 ・ 北海道教育大学 他
R元(2019)	東海学園大学スポーツ健康科学部 ・ 椙山女学園大学 ・ 星薬科大学 ・ 福山平成大学 他
R2(2019)	静岡県立大学 ・ 中部大学 ・ 宮城教育大学 他

Q 1 試験科目の配点や内容はどのようになっていますか。

①小論文試験（100点）／教育に関するテーマを出題，②外国語（英語）筆記試験（100点）／教育に関する分野を扱った英文で研究に必要な英語力を問う，③口述試験（200点）／これまでの研究内容と入学後の研究計画等を中心に行う。
過去の共同大学院の入試問題は，愛知教育大学附属図書館，静岡大学入試情報閲覧室等にて閲覧することができます。
詳細は募集要項をご確認ください。

Q 2 分野別に入学定員は決まっていますか。

共同専攻を構成する愛知教育大学と静岡大学で各4名の定員はありますが，分野別の定員は定められていません。

Q 3 社会人大学院生を受け入れていますか。

社会人の方のための特別枠は用意していませんが，教育関係等の仕事に従事しながら，修学することができるよう，講義は原則的に土曜日，日曜日に実施し，夏季や冬季における集中講義を行います。また，長期履修制度もあり，仕事との両立を図りながら，学生生活が送れます。

Q 4 留学生の出願資格を教えてください。

「外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者」など募集要項に記載されている「出願資格」を満たすことが出願条件となります。出願資格によっては出願の前に出願資格認定審査が必要な場合があります。

Q 5 主指導教員はどのように決まるのですか。

出願に際して，主指導教員として指導を受けることを希望する教員の中から選り入学願書に記入して下さい。副指導教員は，入学後，主指導教員の指導の下に共同専攻所属教員の中から選ぶことになります。

Q 6 学年の途中での研究内容の変更（主指導教員の変更）は可能ですか。

博士課程における研究は，入学時から計画的に行われるものであり，原則として，主指導教員の変更は出来ません。しかし，やむを得ない場合は，主指導教員と相談の上，所定の手続きを経て変更することは可能です。

Q 7 博士学位取得後は，どのような進路がありますか。

本共同専攻は，修了者が，教員養成系大学・学部の学士課程，修士課程，教職大学院において教育研究に従事し，指導にあたるという後継者養成モデルを考えています。修了後は，教員養成系大学・学部の教員として，教員養成の高度化に対応した人材として，全国的な需要に応じていくことを期待しています。

Q 8 指導を希望する教員に入試前に連絡を取ることはできますか。

各大学のホームページによって教員の連絡先を調べ直接面会の希望を入れてください。ただし，授業など先生の都合が優先されますので，必ずしも面談できるとは限りません。

出願後から入試日までの間は面談できませんので，面談希望がある場合は早めにご連絡ください。なお，指導を希望する教員とあらかじめ面談があるか否かは，入試の可否に関係ありません。